

さくらだより [28号]



2013年2月25日発行

日本家族計画協会が公表した「男女の生活と意識に関する調査」によると、過去1ヶ月間セックスをしなかった夫婦の割合は41.3%で調査を始めた2004年以降最も多かったと報告しています。セックスレスが依然高い水準にあるという状況が明らかになりました。調査は2年おきに実施されているとのこと。昨年は9月、16~49歳の男女3000人を対象に実施し、1306人からの解答がありました。セックスレス夫婦の割合は2004年は31.9%でしたが、2006年34.6%、2008年36.5%、2010年40.8%と少しずつ増えてきました。セックスに積極的になれない理由は①「仕事で疲れている」が男性で28.2%、女性で19.3% ②「出産後何となく」が男性で17.9%、女性で20.5% ③「面倒くさい」は男性で12.0%、女性で23.5%でした。年齢別にみると35~39歳が最もセックスレスの割合が高く46.9%だったということです。不妊期間の長い夫婦が、女性が40歳近くなってあわてて受診するケースが最近増加しています。その大部分がセックスレスで、お互いの仕事疲れと面倒くさいの理由でした。草食系男性が増えていると昨今いわれていますが、草食系夫婦も増えているのです。これでは人口増は望めません。女性は何歳になっても妊娠できると思っている男性が多いのでしょうか。閉経まで妊娠できるなどと考えている人は大きな間違いです。最近ではAMH(抗ミュラー管ホルモン)の低い若い女性が増えています。女性は35歳までに妊娠して欲しいといていた概念はもう古く、AMHが低い人は早めに妊娠をとすすめています。結婚したらず、子作りをと考えられる社会にならないと草食系夫婦は減らないかもしれませんね。子どもに優しい社会、出産と子育てにストレスの少ない文化、男女の平等、多産になる背景をつくっていかないと日本の人口は減り続ける一方でしょう。

